

6次総計画案まとま

パブリックコメントで

豊橋市は、2021年度から30年度までの10年間を期間としたまちづくりの目標や事業方針定める第6次総合計画案をまとめた。パブリックコメントで意見を募集している。来年1月4日まで。閲覧は市役所、窓口センター、市ホームページ＝QRコード＝で。

【安藤聡】

昨年度から市民や団体、経済界との意見交換をもとに作業を進め、今年9月に素案を公表した。

11月17日に就任した浅井由崇市長の選挙公約の一つ「人づくり」を、基本構想「目指すまちの姿」で反映した。「まちづくりにおいて最も大切なことは、人を育てることです。人とまちがともに未来へと成長を続けている姿こそが、私たちの目指すものです」としている。基本計画で、子育て・教育▽産業▽安全・安心▽健康・医療・福祉▽文化・スポーツ・共生▽にぎわい▽環境▽都市基盤の8項目に、「まちづくり戦略」を加えた。

若者や女性に 力点置いた施策

まちづくり戦略では若者や女性に力点を置いた



施策を展開し、将来に向かって人口減少に歯止めをかけることを目標とした。

また、国連が提唱した持続可能な開発目標(SDGs)と市6次計画の目標年次と同時期になることから「誰ひとり取り残さない社会」に向けた取り組みの実践を盛り込んだ。新型コロナウイルスへの対応として、職場や教育の環境について「デジタルトランスフォーメーション(DX)」の視点で見直しが必要」とした。閲覧は市民センターカリオンビルと中央図書館は27日まで、市役所(東



測定場所を綿棒でふき取る



特殊な機器でATPの量を測定

除菌効果を数値化

ATPふき取り試験の提供開始

豊橋・イズミテック新サービス

水質、大気、土壌、騒音、作業環境などの分析測定をしている「イズミテック」(豊橋市高師町、大野哲社長)は、除菌の効果を測定するサービス「ATPふき取り試験」の提供を始めた。コロナ禍でアルコール除菌などをする機会が増えている。その効果を数値化できる。

細菌などの細胞内に存

在する「アデノシン三リン酸(ATP)」の数を特殊な装置を使って調べる。具体的には測定場所を綿棒でふき取り、試薬を入れる。ATPの量で試薬の発光量に変化し、それを特殊な機器で測定して数値化する。同じ場所を除菌前と除菌後に測定すれば、数値の違いで効果が分かる。ATPの量が多ければ

細菌が多い、少なければ細菌が少ないとなる。細菌が繁殖しやすい場所はウイルスも繁殖しやすいとされており、コロナ対策の目安になる。

同社は、飲食店、事務所、家庭など、さまざまな場面に需要があるとみる。環境課の中井健人課長は「発行する検査報告書で、除菌前と除菌後の数値を比較できます。コロナ対策の効果を数値化することで安心感が得られます」とPRする。

料金は1回1500円(税別)。除菌前と除菌後の調査をすると2回分になる。別途出張料が必要。申し込み・問い合わせはイズミテック(0532・46・8521)へ。

【竹下貴信】